

福島県PTA連合会会報  
第51号\_H12.03.03

# PTA ふくしま

第51号  
福島県PTA連合会  
編集/調査広報委員会  
印刷/泉印刷所



## 豊かな体験を！

小・中・高校への総合的学習の時間の  
新設や学校評議員制度の導入等によ  
って、学校がさらに変わろうとして  
おります。

このような変革の中、PTAのあり  
方について共に考えることが急務か  
と思います。



写真は、1日行事として実施したスキー教  
室の一風景。

多数の父母などが“一日先生”としてか  
かり、全校児童がいっそう「雪」に親しみ、  
楽しんだようです。

[写真提供：福島第一小学校]

現在、中・高校生の問題行動は、  
大きな社会的な課題になっている。  
問題行動をする中学生はごくごく  
少数であるが、マスコミの報道は  
衝撃的であり、憂慮すべき状況に  
あることは、誠に残念です。  
その原因は何なのか考えるとき、  
大人社会の在り方、特に家庭生活  
にその一因が在るのではないかと  
思う。現在の学校の在り方は、高  
校への進学率が三十年前と比較し  
て大きく向上したが、その他には  
大きな変化はない。それに比べ、  
家庭生活はどうであろう。三十年  
前と比較して、エネルギー革命や  
家屋の構造、情報化等の面では格  
段の差がある。この豊かな生活は、  
素晴らしいことであるが、これと  
引き換えに失ったものも多い。親  
子の会話や戸外で群がって遊ぶ姿  
などである。

本校のある学年掲示板に今月の  
言葉として次のような文が掲げら  
れていた。「子どもの心に残るのは、  
親が買い与えてくれたものでなく、  
愛を注いでもらったという思い出  
である。(リチャード・L・エバンズ)」  
月々に変化するので、校内巡視の  
時の楽しみの一つになっている。  
最近読んだ書物にこの内容によく  
似た言葉があった。それは、親が  
子に残すことができる最も大切な  
もの、それは一生の心の糧となる  
幼年期の記憶の庫である。それを  
思い出すたびに幸福感が湧いてく  
るような記憶の宝庫である。」(木  
原武一著「父親の研究」)  
人間とはほんの些細なことによっ  
て心を豊かにすることができるも  
のである。その宝庫づくりのため  
に、親は子供に命令したり教え  
たりしなくてもよい。心を豊かにす  
るような経験の機会を数多く提供  
するだけでよいと思う。特別なこ  
とでなく、日常の生活に即し行  
うことが肝要である。生活のないと  
ろには家庭教育はなく、家庭教  
育のないところには、親密な親子  
のコミュニケーションは成り立  
ない。子供の生活をよく見詰め、  
そして真剣に愛情豊かに子供との  
対話をするのが、今求められて  
いる事と考えます。



## もっと、親子の対話を

副会長 松本忠清  
(福島県中学校長会長)

県P連活動スローガン「語り合い 分かり合い 確かな信頼関係を」

県P連活動スローガン

語り合い 分かり合い 確かな信頼関係を

県P連の活動スローガンを設定して二年目になります。今年度も多くの実践が報告されています。県内各地で上映され、好評を得ている「ハッピーバースデー」の鑑賞を通じた活動は今年度の特徴です。

昨年度に引き続き、特色ある活動をしているPTA等について紹介いたしますので、次年度の活動の参考にさせていただければ幸いです。

「ハッピーバースデー」がアニメ映画になるのを新聞紙上で知った長女は、中学校の図書室で貸し出しになつていた原作を読みました。二女は学校からもらったきたチラシを手に「見にいきたいなあ。」と言います。「もののけ姫」以来のアニメですし、せっかく地元で上映されるのだから行こうか、と娘二人と三枚の券を求めました。

「あのね、あすかのお母さんの記念樹はでこないんだよ。お姉さんが生まれた記念樹

は(話の中に)出てくるんだだけ。」原作ではお母さんの実家は違うんだよ。」と、本を読んでいない私に、二人はストーリーを教えてくださいました。

さあ当日、友達どうしで、親子で、家族で、と席が埋まります。ざわめいていた会場もフィルムが回ると静かになります。子ども達も主人公の年齢と近いせいか、スクリーンの中にひきこまれていきます。

母親は、あすかが親の思い通り

にならない気持ちを話す相手もなく、仕事や家事の忙しさから、ゆったりと我を振り返ることも考えることもできない。そんな自分のストレスを一番身近にいる弱者のあすかへ向けてしまったのでは、と感じます。そして、あすかの母が私の中の一部を写し出したように、胸が痛みます。

エンディングテーマが流れると、「すぐには出ていけないね。」という声(涙目で)、私達も同感です。ロビーへ出て娘は原作を手元におきたいと求めました。

その後、改まって映画の話はしていませんが、子ども達と「ハッピーバースデー」という共通の話題を持つことができました。本棚にある本を私も読んで、これから折にふれて話し合える我が家の話題作にしたいと思えます。

(鳴原登紀子)



常葉町PTA連絡協議会研修会

二十一年の歴史を何より

「心の教育」をいかに実践する

「田村郡常葉町PTA連絡協議会」

映画「ハッピーバースデー」鑑賞後に五つのグループに分かれ、「家庭教育」について協議を行いました。

① 一、二グループは、小学校低学年の保護者中心に幼稚園・保育所の保護者も含めた協議、② 三、四グループは、小学校高学年、③ 五グループは、中学校の保護者を中心に討議がなされました。

映画鑑賞後の感想を含めた形で協議がなされました。協議の柱としては次の三点でした。

(1) 親が自分の親から受け継いだ家庭教育を、知らず知らずのうち子どもに押しつけていないかどうか。また、主人公の母親静江は自分が育てられた生育歴を、あすかと兄直人へ投影してはいないかどうか。あすかをどうしても好きになれない母親の心境はどのようなものなのか。等について話し合いがなされました。

「親が変わらなければ子は変わらない」という視点から活発な意見が交換されました。子どもの視線で子どもと話し合うゆとりを持ちたいという意見や、さらに父親の存在が映画では希薄であるが、父親の出番の大切さも痛感させられたようです。

子どもは親や周りを見て育ち、大きくなって、そのように振る舞うことが多いものです。親の生き方、言動の比重が大きくいことを再認識した会員が多かったようです。

(3) いじめ問題について 実際にいじめにあっている実例も出されて意見の交換がなされました。あすかの勇気を賞賛する声もあるが、実際にはあすかのような例は少ないのでは、という意見も出されました。いじめについては、教育現場での教師や親の対応が大きなウェイトを占めるので、連携をとって対応することが大切ではという意見も出されました。

日常的に映画のような場面はあり得ることです。今日の映画を見て家庭に戻り、家族とともに話し合っていきたいという参加者がほとんどでした。映画をもとに意見を交換する形をとったので、参加者にも好評でした。参加者百六十余名。(会長 早川栄二)

# 共に語り合う時間を

## 「下郷町立檜原小学校父母と教師の会」

今回の映画視聴で主人公「あすか」を通して、いろいろな側面から考えることができました。あすかと母との親子関係だけでなく、いじめ問題や養護学校とのかかわり、そして生きていく上で何が大切かということまで。

ここに二人の感想を載せます。「この映画をみて、三つ学んだことがあります。一つ目は命の尊さ、二つ目は友達との仲、三つ目はいじめをとめる勇氣です。あすかちゃんのやったことは、私にとっても勉強になりました。」

(小5女)

「仕事に追われ、私のストレスを子供に向けてしまうことが時々あります。この映画を観て、自分と重なる部分があり、ハッとさせられました。心の成長には、物でもお金でもない、親とのふれあい、自然とのふれあい、人とのふれあいが大切だと考えさせられました。」

(一母親)

ここにも述べられているように、あすかと母親を自分に置き換えて感想をもった人達が多かったようです。

あすかについては、やはり「あすかなんか生まれてこなければよかった」という母の言葉が強く心

に残り、涙がでるほどかわいそうだというものでした。また、あすかの母親については、今までの自分の言動を反省させられ、親としての在り方、接し方を考えさせられたというものでした。

この映画を通して家庭で話題になったことは、全体を通して強い子供に成長したあすか、生命の大切さ、祖父母の役割などです。福島が舞台ということ、身近な親しみのある映画としても意識されたいかもしれません。

人は豊かな自然の中でゆっくり心を休める時間が必要な時があり、それを契機に人間として一回り大きく強くなれることを、あすかは見せてくれました。自分の気持ちを大切にし、その気持ちに正直に行動できる勇氣の必要性も教えてくれたような気がします。

下郷町の家庭でも、親子での語らいの場や時間は少なく、親子で共有した時間をもとに語らうことができたこと自体が有意義だったように思います。

上映決定から上映までの期間が短く、冬休み中の実施ということにもかかわらず予想以上の入場者を得ました。TVでの宣伝や、すでに上映を終えていた隣の口こ

ミもあり、上映の期待が高まっていたことによるものと思います。事前に原作を読んでいた人もかなりいたようです。

これを機に、親と子で共有する時間が増え、語らいの時間が多くなることを願っています。

(会長 星 敏恵)

## 学校・家庭・地域の融合を目指して

### 〔葛尾村立葛尾小学校父母と教師の会〕

私たちPTAは一

〇〇名(保護者会員八十八名、教職員会員十二名)の会員を有し、会員数は少ないものの「教養委員会」「施設委員会」「厚生委員会」「育成委員会」の専門委員会を構成し、家庭と学校、保護者と教職員、子供たちと私たち大人のそれぞれの関わりを有機的に作り、地域全体で子供たちの成長を育もうと各種活動を積極的に展開しています。特に、私たちの葛尾村は一自治体一小学校のため、PTAだけではなく地域全体で子供たちを育む環境づくりは特筆すべきではないかと感じています。

PTAでは、子供の健全育成のため

に学校と家庭がどのように連携していけばよいのかを考え、子供の意識の多様化や、社会環境の複雑化などにより周囲の条件が変化していることに対応するため、平成八年度にそれまでの「補導委員会」を「育成委員会」と名称を改め、委員会の活動も私たち大人の目線からの活動だけではなく、子供たちや地域社会全体も含んだ立場に立つての活動へと発展させてきました。

名称を改めて取り組んだ活動が「いっしょに子供を語ろう会」でした。再出発当初は、「何を議論すればよいのか」「どんな活動をすればよいのか」など全てが手探り状態での運営でしたが、とにかく子供たちの学校での様子や家庭での過ごし方、登下校途中の子供たちの様子などを情報提供という形で話し合いながら、併せて地域の様子なども確認する中で子供たちの生活環境を考えてみよう、動き始めました。

二年目からは、子供たちを育む環境づくりは小学校だけの議論だけではなく不十分だということで、幼稚園、小学校、中学校がいっしょになって「幼・小・中合同いっしょに子供を語ろう会」を開催し、それぞれの年代の子供たちの様子やそれぞれの保護者の考え、学校側の取り組みなどを話し合い、地域全体での取り組みに向けて一歩前

進しました。

試行錯誤の連続でしたが、参加された会員の「こんな小さな村の中なのだからこそ、みんなでなんとかしよう」という意識が、「自分の子供」だけではなく「みんなの子供」として村の子供を育んでいるという活動を支えているのだと思います。加えて、「あの子は〇〇さんの△△君だよ」と地域の誰もが子供たちに関心を持って接することが、地域の連帯を深め、子供たちの「こころ」を豊かにし、安定させるのではと感じています。

(会長 東海林 幸敏)

スローガンには、「子どもと子ども、子どもと親(家庭)、子どもと教師、親と教師……」というサブタイトルが付いています。「……」なのです。家庭、学校、地域の連携・融合が叫ばれている意味がそこにあります。

「PTAの歌」の2番の歌詞は「みどりに輝く学校が 明るい家庭をよんでいる 希望の町よ 希望の村よ 文化の光に手をのべて

子どもといっしょに進もうよ」です。「子どもといっしょに」なのです。「子ども」を置き去りにして進むことのないようにしなければなりません。各単Pの会則に示されたPTAの目的を再認識したいものです。(古内調査広報部長)

各・地・区・だ・よ・り

『生きる力を育むPTA活動』

福島地区



福島市小中学校PTA連合会  
T A 連合会は小学校  
四十九校、中学校二  
十一校、養護学校二  
校の計七十二校で組

福島市小中学校PTA連合会  
会 長 佐藤 一 好

専門委員会は財政・教養・厚生・健全  
育成・広報・進路指導・母親の各委員会  
で構成されております。

毎年秋季に開催されるPTA研究大会  
は今年度で四十二回を数え、会員・教育  
関係者より高い評価を頂いております。

各単位PTAでは家庭、学校、地域と  
の連携のもと、その地域の特性を生かし  
た様々な活動を展開しております。例  
川をテーマにした水辺の楽校の開催・子  
供創作太鼓やマーチングバンドの指導な  
ど

今回は「生きる力を育むPTA活動」  
子供を真に理解しているかをテーマに、  
青年の体験談、教育相談所長・水戸昇先  
生の「心がよみがえるとき」と題したこ  
講演、フォルクローレ(中南米音楽)の  
鑑賞などが行われ、時間を感じさせない

熱心な大会となりました。

この大会を通じ

① 親自身が、自分の人生をしっかりと生  
きてみせる。

② 子供の可能性を信じ、興味関心のあ  
るものに取り組ませる。

③ 良質の感動や体験にふれるゆとりを  
もたせる。

これらの大切さを学びとることができ  
ました。

また、本連合会は毎年、会員に対し教  
育に関するアンケート調査を実施してお  
り、その集計結果に基づいた要望書を作  
成し、市教育委員会と市議会に提出して  
おります。今年度は、特に学校図書書の充  
実に強い要望がありました。

西白河地区

『白河大会の成功に向けて』



西白河PTA連絡  
協議会は、白河市・  
矢吹町・西郷村・表  
郷村・東村・中島  
村・泉崎村・大信村

西白河PTA連絡協議会  
会 長 鈴木 雅 文

記念講演として前白河高校校長平山伊智  
夫氏より「豊かな正しい心を育む家庭と  
親のあり方について」お話をいただきま  
した。また、本年より秋の総会に研究大  
会的要素を取り入れました。例年は講演  
をいただいて終わりましたが本年より県  
PTA研究大会のテーマに沿ってグルー  
プ討議を行い、研究課題をより深化させ  
ることができたと考えております。

さらに来年度の県PTA研究大会白河  
大会を主管するにあたり、本年度より実  
行委員会を立ち上げました。来白される

例年五月に総会を開き、前年度の事業  
報告・決算報告・同承認、今年度の事業  
計画・予算並びに新役員の選出がなされ  
ます。今年度の事業といたしましては六  
月に教養・広報委員研修会を東村で行い、

本実行委員会は現在、総務委員会、運  
営委員会、会場委員会、会員・接待委員  
会、宿泊委員会、交通委員会、編集・記  
録委員会に分けそれぞれに事務局を設け  
委員会ごとに活動を行っております。必  
ず皆様のご期待にこたえられる大会に  
なるよう、そして二十世紀最後の大会に  
ふさわしいものになるよう努力を重ねて  
まいります。皆様とともに新世紀の扉を  
開けますよう絶大なるご協力よろしくお  
願い申しあげます。

第23回 子どもの災害防止コンクール

第23回子どもの災害事故防止習字・  
ポスター展の審査は去る二月八〜九  
日に行われ、優秀作品が決まりました。  
今年度は習字一二九校から二一七  
五点、ポスター六三校から三四九点  
の応募があり、審査には次の各氏が  
あたりました。

(敬省略)

《習字》

- 鈴木 幸子 (元蓬萊小教諭)
- 佐藤 一男 (元清明小教諭)
- 野澤 光 男 (元北沢又小校長)
- 《ポスター》
- 高 荒 敏 明 (元余目小校長)

《小学校》

- 《最優秀賞》(一年) 矢部裕弥 (川辺) 《二年》 高崎紗弥 (久之浜) 《三年》 齋藤千明 (伊南) 《四年》 田川千愛 (城南) 《五年》 片桐怜子 (五箇) 《六年》 櫻村理恵 (永盛)
- 《優秀賞》(一年) 佐藤和正 (江名) 五十嵐歩 (河東三) 工藤史香 (南向台) 《二年》 原 舞唯 (川辺) 高橋真未 (五箇) 大友まいこ (夏井) 《三年》 峯 優子 (江名) 伊藤武真 (永崎)



原みどり(謹教) 櫻村千恵(永盛)  
矢内貴大(石川) 《四年》 鈴木希枝(久之浜二) 首藤花央(永盛) 郷 勇人  
(五箇) 高橋郁也(都路) 大久保 矢  
部 舞(川辺) 《五年》 矢内崇志(行  
徳) 鈴木詔子(川辺) 鈴木若菜(社  
川) 宝槻 拓(松川) 宗像克往(都  
路) 大久保 《六年》 渡辺彩華(五百  
川) 関根美保(須賀川三) 佐々木由  
美(荒井) 畠山美里(滑津) 岩沢  
瞳(城西)

みち

高崎紗弥

高崎紗弥(久之浜一小2年)

道具

永盛小

櫻村理恵

▲ 櫻村理恵(永盛小6年)

《優良賞》(一年) 廣岡沙理衣(猪苗代) 阿部真弓(久之浜一) 溝口景子(大東) 大戸祐樹(里白石) 《二年》 楠奈津美(館岩) 木須法子(瀬上) 小椋直毅(三代) 関根拓海(大東) 《三年》 物江ゆき(笈川) 河原田春歌(伊南) 鈴木基代(川南) 津島美里(双葉南) 鈴木達朗(川辺) 菅野泰徳(福沢) 星 里佳(小田川) 《四年》 丹内陽香(川辺) 岡田拓也(双葉南)

耶麻地区

『この一年を振り返って』



耶麻地区小中学校PTA連絡協議会 会長 飯塚康雄

耶麻地区小中学校PTA連絡協議会では恒例の懇親会を行いました。各校の役員が旧交を温め、各PTA活動の情報交換をし、各市町村の教育行政の違いを議論したりと大変充実した懇親会でした。年一度の貴重な機会を今後も継続したいと思います。我が地区協議会は、七市町村にまたがっており、それぞれ独自の教育行政のもと、特徴ある活動を行っており、今後は、お互いの市町村の連携をより一層深め、学ぶべき所は取り入れ、改善すべき点は改め、お互いに切磋琢磨し、地区の教育環境整備に努め、未来を担う心豊かなたくましい子どもの育成を目指し、活動していくつもりです。

日P基金協力校

ありがとうございます

平成十一年度

(二月十七日現在)

- 【県北】杉妻小・福島二中・福島大附属小・佐原小・瀬上小・森合小・梁川中・半田醸芳小・二本松北小・新殿小・富野小
【県中】小山田小・上伊豆島小・大成小・安積一小・行健小・鏡石一小・大森小・鏡石中・母畑小・三春中・夏井二小・上大越小
【県南】白河二中・大屋小・高城小・富田小・西野小・白河二小
【会津】謹教小・川南小・野沢小・入田村小
【南会津】下郷中

平成十年度分

集まっている書き損じはがき、切手、テレフォンカード、現金等多少にかかわらず県P連事務局に送付ください。

- 【いわき】好間二小・大浦小・久之浜一小・小名浜三小・永崎小
【北北】御山小・立子山小・荒井小・蓬萊東小・土湯小・福島一中・杉妻小・湯野小・森合小・福島二中・飯野小・福田小・福沢小・二本松北小・平石小・鈴石小・田沢小・二本松二中・百目木小・東和中・新殿小
【会津】城南小・荒館小・野沢小・駒形小・金山小・新鶴小
【相双】中村一小・双葉中・富岡二中・富岡二小
【いわき】小名浜三小・小川小・錦東小・高久小・豊間小・永崎小・桶壳小・平三小・玉川中・四倉小・大野一小・平二中
以上八十二単Pです。

- また、九月の東北、県PTA相馬大会では恒例の懇親会を行いました。各校の役員が旧交を温め、各PTA活動の情報交換をし、各市町村の教育行政の違いを議論したりと大変充実した懇親会でした。年一度の貴重な機会を今後も継続したいと思います。我が地区協議会は、七市町村にまたがっており、それぞれ独自の教育行政のもと、特徴ある活動を行っており、今後は、お互いの市町村の連携をより一層深め、学ぶべき所は取り入れ、改善すべき点は改め、お互いに切磋琢磨し、地区の教育環境整備に努め、未来を担う心豊かなたくましい子どもの育成を目指し、活動していくつもりです。

整理 平一中 本郷真大

▲本郷真大(いわき一中3年)

- ◆最優秀賞 《一年》本名みずほ(喜多方二) 《二年》笠間早紀(大熊・大野) 《三年》竹内ひとみ(鳩原) 《四年》

- ◆最優秀賞 笹岡真央(猪苗代・吾妻2年)
◆優秀賞 小山恵美(鏡石2年)
◆優良賞 渡部真由美(猪苗代・吾妻2年)

- ◆最優秀賞 《一年》馬場美幸(伊南) 《二年》宮腰義隆(信夫) 《三年》本郷真大(平一)
◆優秀賞 《一年》本郷友理(平一) 《二年》荒川元恵(平一) 《三年》鈴木和彦(信夫)
◆優良賞 《一年》車田佳子(鏡石) 《二年》佐藤 彩(郡山四) 《三年》山口典子(三春)

- ◆最優秀賞 《一年》佐竹美涼(みさか) 《二年》面川理恵(鏡石一) 《三年》内海佳奈子(豊川) 《四年》箭内友美(双葉南) 《五年》鈴木絵美(五箇) 《六年》遠藤亜都美(五百川)
◆優良賞 《一年》岡部 奨(稲田) 《二年》村上友香(石川) 《三年》鈴木晃(城南) 《四年》野田隼登(小名浜西) 《五年》青木啓希(小山田) 《六年》山下理恵(双葉南)



▲神谷ひとみ(内町小5年)



▲本名みずほ(喜多方二小1年)

### 県P連 今年度の主な活動等

6月8日(火) 評議員会  
 6月25日(金) 小中別懇談会  
 同 常置委員会・理事会  
 7月6日(火) 役員総務合同会議  
 7月10日(土) 会報49号発行  
 8月20日~21日 日P愛媛大会(14名参加)  
 8月27日(金) 母親代表者懇談会  
 8月31日(火) 理 事 会  
 同 映画「ハッピーバースデー」試写会  
 9月10日~11日 東北・県P相馬大会  
 ☆母親リーダーセミナー  
 9月17日(金) 県中南(須賀川)  
 21日(火) 会津(会津若松市)

9月24日(金) 浜(檜葉町)  
 28日(火) 県北(福島市)  
 ☆映画「ハッピーバースデー」上映事業  
 10月から平成12年4月まで  
 (次号で概要を報告します)  
 12月6日(月) 会報50号発行  
 2月10日(木) 役員総務合同会議  
 ☆災害事故防止習字・ポスター展  
 2月19日(土)~3月5日(金)  
 於 県青少年会館2階ロビー  
 2月29日(火) 評 議 員 会  
 3月3日(金) 会報51号発行

### 安全互助会から

平成12年度から、学童の傷害補償額が下表のように大幅アップとなります。

コース名	A コー ス	B コー ス	C コー ス
死 亡	70万円 ⇨ 110万円	60万円 ⇨ 90万円	100万円 ⇨ 160万円
入院日額	1,000円 ⇨ 1,350円	780円 ⇨ 1,050円	1,200円 ⇨ 1,600円
通院日額	650円 ⇨ 900円	520円 ⇨ 700円	800円 ⇨ 1,100円
後遺障害	2.1万~70万円 ⇨ 3.3万~110万円	1.8万~60万円 ⇨ 2.7万~90万円	3万~100万円 ⇨ 4.8万~160万円

- ◆表内 左側の数字は今年度で右側の数字が平成12年度からの補償額となります。
- ◆未加入の学校(単P)にあっては、この機会にぜひ加入ください。
- ◆加入いただいている学校では、コースについて再検討ください。

### 交通事故防止を

春の暖かい日差しに誘われて、子ども達の行動範囲が広がったり遊びそのものも多様化したり活発になるようです。このようなとき、思わぬ事故が発生するケースが目立ちます。そこで、特に、春休みと学期始の期間における交通事故等の防止に万全を期していただきたいと思えます。

- 家庭・学校・地域での防止対策を
- チャイルドシートの着用を

一六歳未満の子どもに着用義務以上の二点については特に対応いただきたいと思います。

### 編集後記

今年度県P連の最大の事業は、東北P相馬大会と映画「ハッピーバースデー」の市町村上映でした。相馬大会では、限られた諸条件を克服して、相馬地区会員が心を一つにして大会を成功に導かれたことに改めて感謝します。映画上映につきましては、県内九十市町村のうち、三割弱の実施でしたが、大きな反響を呼びました。今こそPTAも、子どもたち以上に「よき体験」を積み重ねることの意義を感じました。これもまた子どもに見せる「親の後ろ姿」とも思いますが如何でしょうか。

福島県PTA安全互助会 提携損保

## 共栄火災海上保険相互会社

東北第3支店・福島支社/〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル内

TEL 024-523-3507

郡山支社/〒963-8023 郡山市緑町8-7 TEL 024-922-3606

会津若松支社/〒965-0871 会津若松市栄町5-22 朝日生命ビル内

TEL 0242-24-6615

いわき支社/〒970-8026 いわき市平字大町7-1 平セントラルビル内

TEL 0246-23-7220